

銅造観音菩薩立像

福聚寺観音堂の観音菩薩像は、高さ三三センチの金銅仏で、三山冠をつけた大きな頭部、秀でた眉、一文字の引き目があり、胸部に二条の瓔珞ようらくがあつて脚部の前にたれ、左手でこれを押さえている。腰は細くひねりを見せ、天衣てんねは、一旦両腕で反転し、渦を巻いて柔らかく台座に垂れている。右腕と左下の天衣は後

補（木製）のものである。台座には蓮華の上端がわずかに見え
ている。

像の全体に白鳳時代（奈良前期）の特色が見られ、滋賀県慈
眼寺の観音菩薩立像によく似ている。また恵日寺にあつたもの
が飛来したという言い伝えがある。

所 在 地 関柴町平林字地利前 福聚寺

指定年月日 昭和三十年三月二十九日

